

海の森 WashShield 「除菌・抗菌・抗ウイルスの仕組み」

①不飽和脂肪酸・モノテルペンアルコール・フェノール類

海の森 WashShield に含有する植物エキスには、不飽和脂肪酸・モノテルペンアルコール・フェノール類が含まれています。これらの成分が、除菌・抗菌・抗ウイルス作用を示します。海の森 WashShield は、海の森シリーズの中で、不飽和脂肪酸の含有量が最も多くなっています。

不飽和脂肪酸:	細胞膜に取り込まれ細胞膜の流動性が増加することによるダメージ
モノテルペンアルコール:	細菌細胞膜に入り込み、脂質 2 重膜の流動性の向上を引き起こすことによる膜の損傷 エンベロープウイルスの脂質性の膜(エンベロープ)を破壊
フェノール類:	細胞壁を破壊し、細胞質内の蛋白を沈殿させる。酵素活性の不活性化、酵素の漏出を起こし作用する

②弱酸性油膜

油膜をはることで、まず含有のモノテルペンアルコール・フェノール類が抗菌・抗ウイルスします。モノテルペンアルコールは約 20 分で、フェノール類は約 6 時間で揮発します(アルコール消毒効果は約 5-15 分)。モノテルペンアルコールが揮発した後は、残ったフェノール類・不飽和脂肪酸含有の弱酸性油膜が抗菌・抗ウイルスします。

皮膚の場合、皮膚常在菌は弱酸性の環境では善玉菌優位となります。海の森 WashShield で除菌後は、アルコール消毒同様善玉菌・悪玉菌どちらも少なくなります。除菌後の環境を弱酸性に保つことで、善玉菌がすぐに戻りやすくなります。善玉菌の作用によって、悪玉菌の増殖を抑制する(抗菌)ため、抗菌作用が持続します。